

福井県、富山県を視察して

平成 22 年 1 月 25 日（月）～ 26 日（火）に福井県と富山県に視察に行きました。

●福井県を視察して

『学力向上について』

福井県は、学力・体力全国最上位の県です。学力は、中学 3 年生が全国 1 位、小学校 6 年生は 2 位、体力は、中学 2 年生男子 3 位、女子 1 位、小学校 5 年生は男女とも 1 位です。

学校では、少人数指導を実践しています。学級編制基準は 40 人ですが、地域の方々がボランティアで先生方の授業をサポートします。先生の数を増やさずとも、子供たちに目が届く良い考えです。宿題の量が多いのも特徴です。

習慣づけが大事だと思います。大阪での宿題の量を調べる必要があります。また、家庭では 3 原則「早寝、早起き、朝ごはん」を徹底させています。共稼ぎの率が全国で 1 位ですが、孫の面倒を見る元気なおじいちゃん、おばあちゃんがいる事が、良好な子育て環境を作っています。そして、学校と地域と家庭で「地域・学校協議会」を作り、それぞれが取り組むべきことや問題点を話し合い、その成果と課題を教育委員会に報告し、委員会が方向性や解決策を決めるシステムがあります。

全国でも大阪は学力、体力ともほぼ最下位に位置します。大阪では学力テストの点数を公表し、比較させることで頑張らせようとしています。福井県では一切公表はしません。競争させることも必要かもしれませんが、それだけではないけません。原因を再度洗い直し、問題の解決を図り、学力、体力の向上に結び付けたいと思います。



●富山県を視察して

『市町村合併について』

富山県は、市町村合併が全国で最も進み、全国最小の市町村数になりました。平成 16 年以前は 35 市町村がありましたが、平成 18 年には 15 市町村になりました。その原因は、地方交付税の減少で、財政基盤の弱い市町村が生き残れないからでした。合併効果の検証はこれからですが、不満の声は多いそうです。また、民主党政権になり地方に昔のように財源が多く回るようになるなら、合併の必要性があったのかとの疑問の声もあります。

当時大阪では、堺市と美原町の合併だけしかできませんでした。富山県では地方議員が 560 名から 300 名に減少しました。議会の抵抗を受けながらこれほどの合併をしたことはすごいと感じました。

『とやま医薬バイオクラスターについて』

古来より、富山県は、「富山の薬売り」として有名です。知的クラスター創生事業 1 期、2 期として医薬品生産額 1 兆円の市場を獲得する目標をもって事業に取り組んでいます。現在は、4 位ですが、薬事法の改正により、大阪で作っていた薬品を富山で作る受託生産が進み、近いうちに 3 位である大阪を抜くことになるでしょう。

●商工労働部バイオ関連予算 4900 万円

『農林水産系試験研究機関の統合について』

富山県行政改革推進会議の第 3 次提言で、それまで 8 部門がバラバラだった農林水産試験研究機関の再編がされました。非効率だった部門の効率化です。

大阪でも一層の行政改革を断行します。